鳥取県米子市

史跡米子城跡発掘調査
現地説明会資料

絵図に描かれた登り石垣と御門

（米子御城石垣修理御願絵図【寛文７年（1667 年）７月】米子市立山陰歴史館蔵）

平成２９年　４月　２２日［土］

米子市教育委員会

平成２８年度　史跡米子城跡発掘調査の成果について

米子市教育委員会では、現在「史跡米子城跡保存整備事業」に基づき、史跡内の内容確認を目的とする発掘調査を平成２７年度から進めています。

平成２８年度は、絵図に描かれている「登り石垣」と考えられる箇所について、その実態を解明するための発掘調査を実施しました。

米子城絵図には、湊山山頂部の本丸遠見櫓から内膳丸にかけて、「登り石垣」と思われるものが描かれています。踏査により、登り石垣の存在については推定されていましたが、実態についてはよくわかっていませんでした。

発掘調査の結果、絵図に描かれている石垣状のものは「登り石垣」と確認でき、絵図と同じ場所に約４０ｍは遺存していることが分かりました。その構造は、天守のある湊山と内膳丸のある丸山を結ぶ尾根の稜線を利用し、西側（中海側）の岩盤をＬ字状に削って石垣を積んでいます。石垣は４段が遺存していますが、上面の失われた部分も含めると６段以上はあったようです。石垣に用いられた粗割石は、大きいもので長さ１５０㎝以上、幅８０㎝はあり、石垣だけでも３ｍの高さがあったと思われます。石垣東側は土塁を構築して高く作られており、湊山の地形をうまく利用して効率的に作っていることがわかりました。

また、この登り石垣は、内膳丸側の石垣とも一連の造作と考えられることから、内膳丸についても、築城当初は登り石垣の一部であった可能性も考えられます。

登り石垣は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の時に秀吉軍が朝鮮半島南岸に築いた倭城に多く用いられた構造物で、城域の遮断線や、山上と山麓の一体化、港湾防御などの目的を持っています。米子城の築城を開始した吉川広家は朝鮮出兵に参加しており、米子城築城に際し、この倭城に多様された登り石垣を縄張りにとり込んだ可能性が考えられます。

今回の発掘調査成果から、米子城は天守を中心に尾根や谷の自然地形を生かした防御構造をもつ戦国時代的な城であり、また築城当初は、中海側からの防御を主眼におく海城的な性格をもつ城であったことがわかってきました。

◆ 登り石垣が確認されている日本の城（平成２９年３月現在）

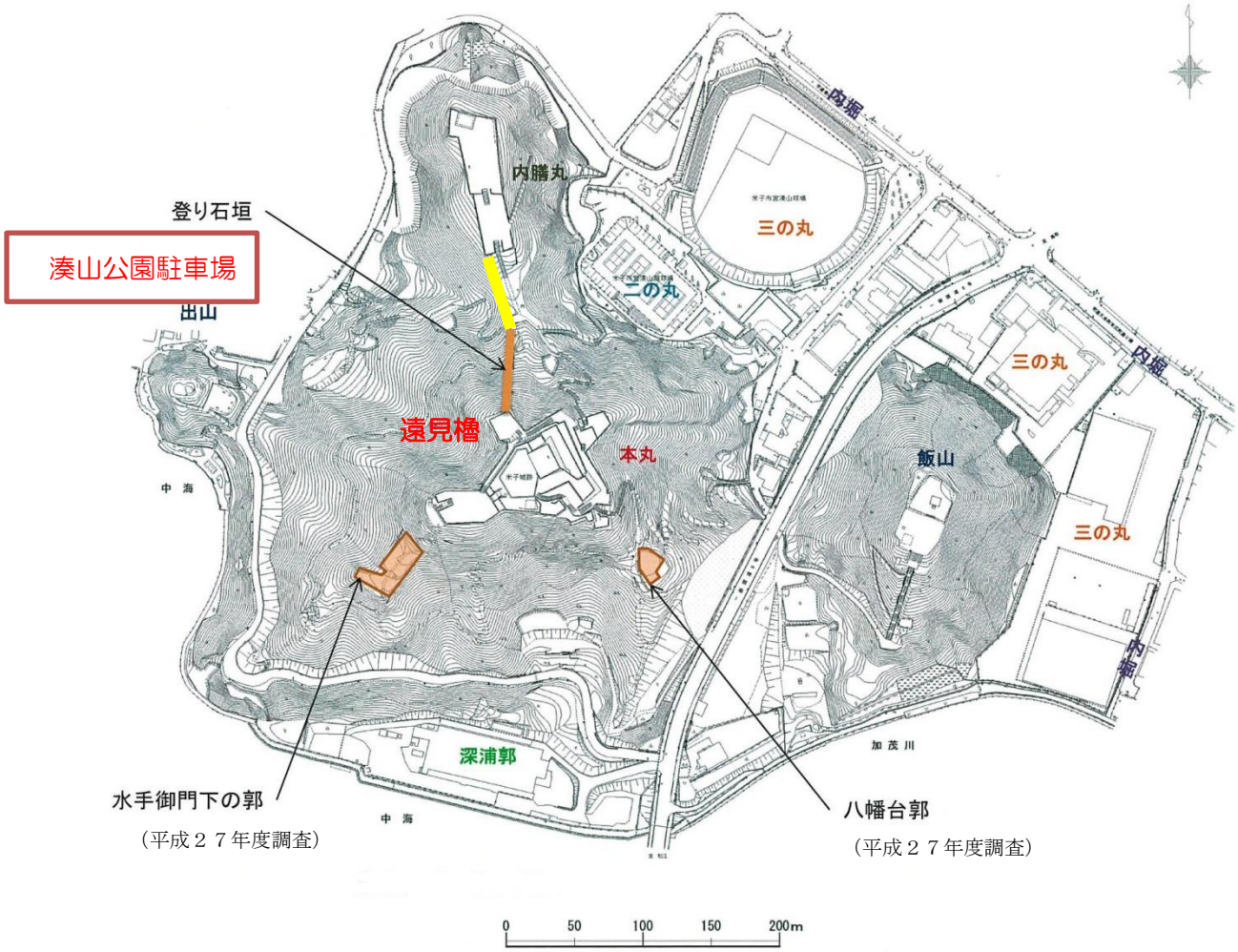
竹田城、淡路洲本（すもと）城、彦根城、伊予松山城

鳥取城（登り石垣は幕末の嘉永（かえい）２年（1849 年）の築造）

◆ 登り石垣が有名な倭城

西生浦倭城（そせんぼわじょう）、蔚山倭城（うるさん）、

熊川倭城（うんちょん）、釜山浦倭城（ぷさんぽ）、機張倭城（ぎじゃん）、など



平成２７、２８年度　米子城跡発掘調査位置図

米子港から中海越しに
米子城を望む

蔚山（うるさん）倭城登り石垣

（滋賀県立大学教授　中井均氏提供）

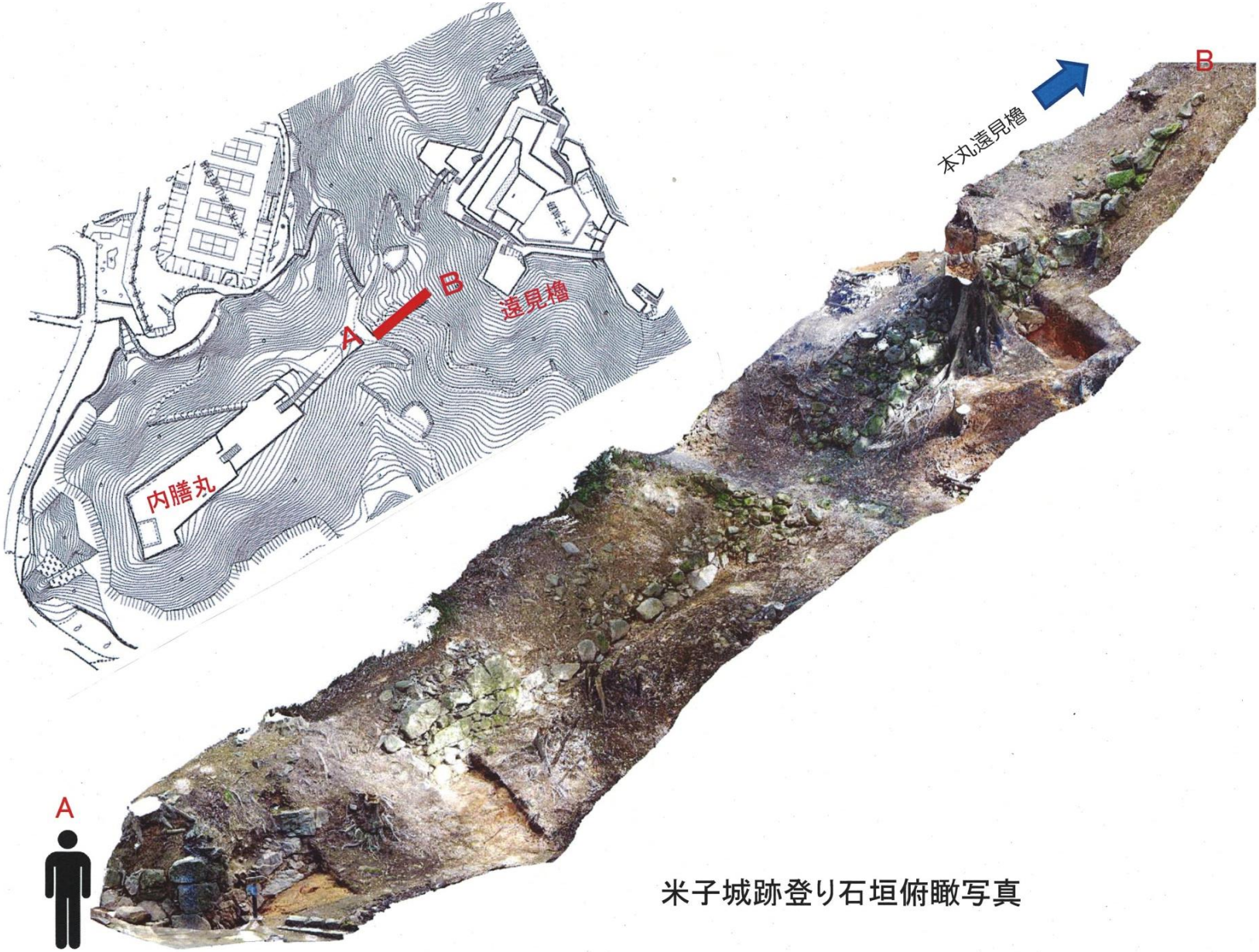
遠見櫓に延びる登り石垣

登り石垣の高低差（手前が中海側）

米子城関連年表

米子は 1467 年の応仁の乱の時に砦が築かれる以前に漁師町あるいは港町として成立していました。

応仁 1 年（1467）～　応仁の乱　米子飯山に山名宗之が砦を築く。
大永 4 年（1524）　５月　尼子経久伯耆に侵入　米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
永禄 5 年（1562）　毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
永禄 9 年（1566）　富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
元亀 2 年（1571）　尼子氏再興運動、尼子勝久・山中幸盛因幡・伯耆へ侵攻。
天正 6 年（1578）　尼子勝久上月城で自刃　尼子氏滅ぶ。　この頃の米子城番は古曳吉種。
天正 9 年（1581）　鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
天正 13 年（1585）　秀吉と毛利輝元の和睦　八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
天正 15 年（1587）　吉川広家（吉川元春の三男）、吉川家の家督を継承。
天正 19 年（1591）　吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など 12 万石を認知され、富田城に入るが、居城を米子に変え、山県九左衛門を奉行として築城開始。
文禄 1～慶長 3 年（1592～1598）　文禄慶長の役（朝鮮出兵）　吉川広家従軍、
古曳吉種は朝鮮で討ち死（1592）。慶長 3 年 8 月、秀吉死す。
吉川広家、富田城に帰り、湊山築城を監督、米子港、深浦港整備。
慶長 5 年（1600）　関ヶ原合戦　吉川広家西軍として出陣。
吉川広家、周防国岩国（３万石）に転封、この頃城は 7 割方完成。
駿河国府中城主、中村一忠（18 万石）が伯耆国領主となり尾高城に入る。
慶長 7 年（1602）　中村一忠 2 高城から完成した米子城に移る。
慶長 8 年（1603）　中村一忠、家老の横田内膳を暗殺（米子城騒動）。
慶長 14 年（1609）　中村一忠 20 歳にて死、中村家は断絶。
慶長 15 年（1610）　岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡 6 万石領主となり入国する。
元和 1 年（1615）　大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を発布するも、米子城は保存と決まる。
元和 3 年（1617）　加藤貞泰、伊予国大洲に転封、
因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり（3 万 2 千石）となる。
元和 4 年（1618）　池田由之死亡、子由成が米子城主となる。
寛永 9 年（1632）　池田光仲、因伯支配（32 万石）、家老荒尾成利が米子城預かりとなる。
嘉永 5 年（1852）　四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
慶応 4 年（1868）　明治維新。
明治 2 年（1869）　朝廷より米子城返上の命令あり。
明治 5 年（1872）　米子城山は士族小倉直人らに払い下げとなる。
明治 6 年（1873）　城内の建物類は売却され、数年後取りこわされる。



米子城跡登り石垣俯瞰写真